

広報すぎなみ

Suginami



みどり豊かな 住まいのみやこ

5/15

令和6年(2024年)
No.2378

杉並のリアルを
“つぶさ”に伝える

商店街の多い杉並には、個性が光る魅力的な店がたくさんあります。そんなまちの特徴に面白さを見だし、飲食店を中心に、そこで生きる人の人情にも触れるリアルな情報を余すことなく発信し続けている、シゲタツヨシさん。愛着ある杉並・高円寺の情報をSNSなどで発信し続ける理由などを伺いました。



特集

編集者・ライター

すぎなみピト

シゲタツヨシ

撮影協力：INCREDIBLE COFFEE 高円寺店

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 | ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) | 🌐 区ホームページ: <https://www.city.suginami.tokyo.jp/> | 📄 発行: 杉並区 | 📁 編集: 広報課



「広報すぎなみ」は月2回(1・15日)発行。新聞折り込みでの配布のほか、区施設・区内各駅などの広報スタンドに置いています。入手が困難な方には個別配布をしています。ご希望の方は、電話・ファクス・Eメール・LoGoフォームからお申し込みください。

詳細は、区ホームページ(右2次元コード)をご覧ください。



取材した自分しか知り得ない、人やまちのリアルな情報を届けたい

引越してきた高円寺で、まちの情報を一日一投稿

—高円寺で暮らし始めたきっかけは何だったのですか？

生まれは大阪で、大学卒業後に関西の会社に就職してサラリーマンになりました。その後、東京のネット通販会社に転職するのをきっかけに上京したのが30歳ごろ。数年後に再び転職するとき、その会社が丸ノ内線沿いにあったので新高円寺に引越してきたのが、高円寺暮らしの始まりです。

—高円寺にはどんな印象を持っていましたか？

何も知らずに高円寺に住み始めたのですが、最初はとにかく「よく分からないまち」という印象でした。というのも、チェーン店が少なく個人経営店が多いので、ちょっと見た感じではまちの様子がつかめないんですね。自分が住むまちを知るためにも、高円寺の店を隅から隅まで訪れてみようと思いました。

—訪れた飲食店の情報をSNSで発信しようと思ったのはなぜですか？

転職した会社が大手企業のネット通販会社で、僕はその事業部のSNSの立ち上げ・運用に責任者として関わっていました。大手企業のSNSとなると、レギュレーション(規定)が細かく決まっていて、SNSでありながら人の投稿に「いいね」をすることもできないんです。それは大企業だから仕方ない面もあるのですが、もっと自由に発信してみたいという気持ちもあり、じゃあ個人で何を発信しよう？と考えたとき、ごはんなら毎日食べるし、一件一件訪れる飲食店を発信していけば一日一投稿できるのではないかとひらめいたのです。



—実際に一日一投稿、高円寺の情報を発信し続けたのですか？

365日で少なくとも365の高円寺の店を巡り、Instagramで発信しました。大企業と、自分が暮らすまちの個人経営店のSNSとは、発信の仕方などに違いがあって学びも多かったです。しばらく並行して続けていたのですが、個人活動を始めて1年経ったころに会社を退職して、以降はフリーランスでライター、編集者、動画クリエイター、SNSのコンサルティング・運用代行などの仕事をしています。

コロナ禍で見えてきた人々の底力。そしてWebサイト開設へ

—SNSを始めて、まちの印象はどう変わっていききましたか？



プロフィール：シゲタツヨシ 昭和59年大阪府生まれ。大学卒業後、ネット通販会社、大手企業のネット通販事業部を経験。転職をきっかけに転入してきた高円寺で飲食店の情報発信をInstagramで開始し、後にWebサイト「ツブサ・スギナミ」を開設。現在、杉並区と香川県三豊市に拠点を置き、ライター、編集者、動画クリエイター、SNSコンサルティング・運用代行など幅広く活躍中。SNSの総フォロワー数は3万人を超える。

一つ一つのお店に関わっていくと、料理やそこにいる人も見えてきて、当初よく分からないと思っていたまちが見えるようになってきました。投稿を続けていくうちにフォロワーが増え、それに伴っておのずと情報もたくさん集まってくる。すると、高円寺というまちが立体的に掴めてきて面白いなと思いました。高円寺って、個人経営店の店主それぞれが「まちの案内人」みたいな感じなんです。誰か一人に出会うとその人が、「この人はシゲタさんで、いろいろなお店を回っていて…」と、次の店あるいは次の人に案内してくれる。だから、直接会ったことはないけれど知っている、という人がまちの中にどんどん増えていきました。

—ネットワークを広げるうえで大切にしてきたことはありますか？

ただSNSに情報をパパッと上げて終わりではなくて、実は結構泥くさい地道な積み重ねの中で、ネットワークを広げてきました。お店の人と仲良くなることはすごく大切で、そのポイントは「常連になる」ことだと思います。僕の場合は同じ店に週4回は通って、何度目かのお会計のときに「おいしかったです」など声をかけることで、店主と話すきっかけを作ろうと心がけてきました。

—Instagramが好調な中、新たに「ツブサ・スギナミ」というWebサイトを立ち上げたのはなぜだったのですか？

きっかけはコロナ禍でした。緊急事態宣言が出て世の中が自粛ムードになる中で、高円寺では「店を守らなきゃ」という雰囲気が生まれて、むしろいつもよりまちが盛り上がり始めたんです。店先でいろいろと売り出して、お祭りみたいで、本当におかしなまちだなと思いました(笑)。僕も高円寺を守りたい一心で、テイクアウトのお弁当をたくさん食べてレビューを書くことにしたのですが、その頃いわゆる「写真映え」みたいなものに疑問を感じ始めていたときで、どちらかという文章できちんと伝えたいという思いがあったので、あえてブログを開設することにしました。

—そのブログが「ツブサ・スギナミ」につながったのですか？

150店舗ほど高円寺のテイクアウトのお弁当を食べて、2000字くらいかけてそれぞれレビューしていったのですが、その過程での出会いがサイト立ち上げの原動力になりました。コロナ禍で、それまであまり表立って出てこなかったけれど実は人脈も行動力もあるという人たちが、いわば緊急時に起爆剤のような役割を果たす人たちにたくさん出会って、彼らの話を聞いてみたい、インタビューして文章で伝えたいという思いが湧いてきたんです。

—高円寺ではなく「スギナミ」としたのはなぜだったのですか？

高円寺だけだと、いろんな意味で少し狭くなってしまいう感覚があったので、もう少し遊びを持たせる気持ちで「スギナミ」としました。高円寺を中心に、阿佐ヶ谷・荻窪・西荻窪などの情報を発信しています。グルメサイトとは一線を画す、取材した自分しか知り得ない情報=人やまちのことを伝えるサイトに育ってきていると思っています。

変化していく高円寺をリアルタイムで届けたい

—シゲタさんは今、香川にも拠点を置いて活動していますか？

高円寺でいろいろな人と出会う中で、古民家を活用した美容サロンの集客をサポートしてほしいと依頼されたことをきっかけに、香川県三豊市にも拠点をもち始めました。思いがけない誘いでしたが、高円寺を俯瞰的に見られる良いチャンスになるのでは、という期待もありました。



SNSなどを通して杉並の情報を発信！



—実際に2拠点生活をしてみていかがですか？

すごくいいです。三豊市は、特に野菜・フルーツ・魚介などが新鮮で安くとても美味しく。旬の素材を季節ごとに食べられるというのは、グルメを中心に発信している身としては最高の環境です。一方で、2・3週間に一度滞在する高円寺での数日間は濃度がすごく濃く感じます。外食をたっぷり楽しんで、散歩もたくさんしています。香川だと車生活で全然歩かないので、2拠点での暮らしを経験することで、振りが広がり、経験値も上がっているなど実感しています。

—これからの活動としてはどんな展望を思い描いていますか？

僕にとって杉並のまちの魅力は、たくさんのクリエイターとつながること。面白いことをやっているクリエイターの卵でもある人たちに、「ツブサ・スギナミ」を通して仕事を創出し、その実績を持ってクリエイターとして食べていけるようになってもらえたら嬉しいです。そのために、「ツブサ・スギナミ」を応援してくれる人を増やしていけるよう、愚直に続けていくことがミッションの一つです。香川にいる時間も高円寺のことはずっと頭にあるし、まちは常に変化していると思っています。そんな、変わっていく高円寺をリアルタイムで、これからもさまざまな形で伝え続けていきたいと考えています。

シゲタさんが取材した記事はコチラにも！

なみじゃない、杉並！

中央線あるあるPROJECT

中央線あるあるPROJECTは「なみじゃない、杉並！」を合言葉に、区内の中央線沿線の魅力を発信しています。中央線あるあるPROJECTホームページ(右2次元コード)でシゲタさんが取材した「昭和30年創業 荻窪邪宗門の店主に聞く」を掲載しています。



JR中央線4駅 高円寺・阿佐ヶ谷・荻窪・西荻窪エリアの魅力を発信中！